

2016年度酒パックリサイクルに関するアンケート調査結果



酒造メーカーにおける酒パックリサイクルの現状を把握するため、毎年行っている実態調査を2016年度も実施しました。その結果以下の内容が明らかになりました。

〈酒促進協会24社の使用量およびカバー率〉

- 仕様別使用量
- アルミ付 162,988,341本 (9,347,158kg)
- アルミなし 112,756,087本 (7,799,619kg)
- 合計 275,744,428本 (17,146,777kg)

- カバー率
- アルミ付 = 52.0%
- アルミなし = 93.6%

全国で流通する酒パック総量
(2015年度紙パックメーカー総販売重量)
● 26,317,000kg (アルミ付) = 17,983,000kg
● アルミなし = 8,334,000kg

まとめ

- ① 2015年度と会員数は変わらないが、会員全体のバック生産数量、重量ともに微減した。重量は約0.6%減少。
- ② 会員全体のカバー率は2015年度に比べ4.1ポイント増加した。
- ③ 会員全体の損紙リサイクル率は、2015年の84.2%から86.6%と2.4ポイント増加したが、大勢は変わっていない。

なお、非会員を加えた全体のカバー率も2015年度に比べ3.9ポイント増加した。対象非会員数を増やした効果が現れていると思われる。

第30回情報交流会

広報部会報告

広報部会・中尾部会長

貸出用紙管パネルの利用事例



ロハスフェスタ 万博2017 SPRING

2017年5月19日(金)～21日(日) 【宝酒造】

2006年より万博記念公園東の広場で毎年開催される環境啓発イベント。

3日間のイベントへの来場者数は54,295人で、宝酒造ブースにも約1,000名の方々が来場。4Rの取り組みや環境教育を紹介した紙管パネルを使った展示を実施。



環境省主催 エコライフフェア2017

2017年6月3日(土)～4日(日) 【宝酒造】

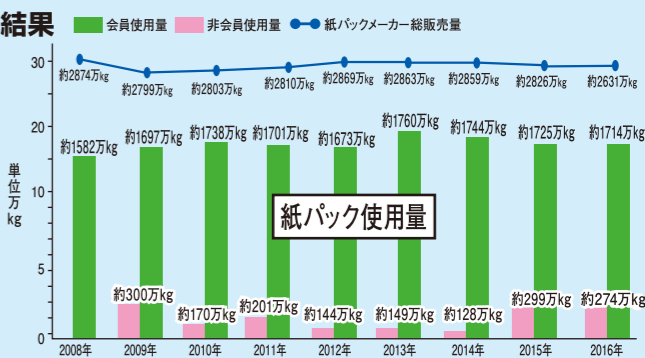
2009年より代々木公園で開催される環境省主催の環境展。

2日間のエコライフフェアへの来場者は40,598人で、宝酒造ブースへは330名の方々が来場。4Rの取り組みや環境教育活動などの社会貢献活動を紹介した紙管パネルを展示。



9年間(2008～2016年)の比較調査結果

充填損紙リサイクル率の比較									
	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度
充填紙量(トン)	169.1	215.1	214.6	243.1	221.1	220.4	244.9	222.3	227.0
再生量(トン)	127.3	180.7	170.8	231.4	210.9	211.1	209.7	187.1	196.5
リサイクル率(%)	75.3	84.0	79.5	95.2	95.4	95.8	85.6	84.2	86.6

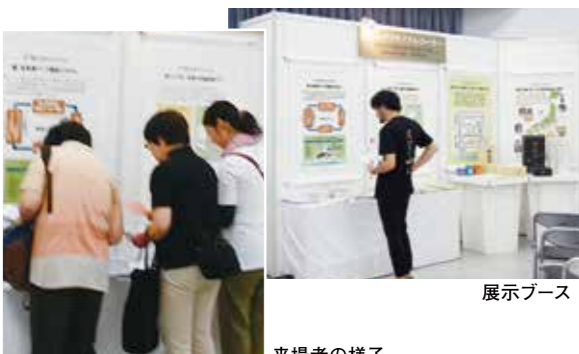


日本酒フェア2017

2017年6月17日(土) 日本酒造組合中央会



東京池袋サンシャインシティで毎年開催される日本酒フェアの「公開き酒会」会場(文化会館4F)にて「酒パックリサイクルコーナー」を設け紙管パネルを活用、酒パックのリサイクルを呼びかけました。



解説と討議

酒類用紙パックのリサイクル表示ガイドライン(案)

凸版印刷株式会社 事業戦略本部部長 植松 正浩氏



酒類用紙パックならではの各種情報の提供を充実することによって、酒類用紙パックに対する消費者の理解を深め、分別収集適合物の品質向上をめざすことを目的に、リサイクル表示の統一ガイドライン(案)を解説していただきました。

ノンアルミアルミ付それぞれの識別マークの表示およびノンアルミ紙パックをリサイクルするための解体表示、アルミ付紙パックの減容化表示の統一案を提示、参加者と意見交換を行いました。



講演

NTTの特効子会社が取り組む酒パック等のリサイクル事業について

NTTクラレ株式会社 営業部企画コンサルティンググループ 課長 前田 麻利子氏



NTTクラレには、267人の障がい者が働いており、障がい者の強みを生かした各種業務を推進しています。

山梨県甲州市にある塩山ファクトリーでは、52名の障がい者が酒パック等を原材料にした手漉き紙による卓上カレンダー、メモカード等を製造販売しています。また3年前から市内全保育所を対象に、紙漉きのワークショップを行っています。

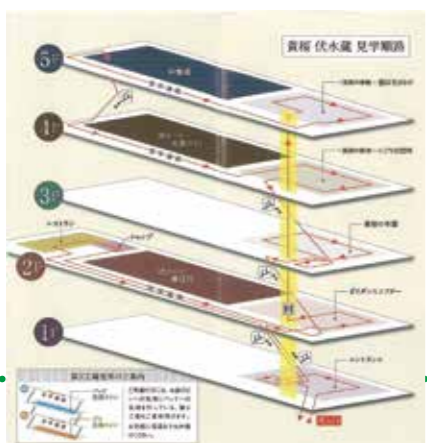
園児の皆さんが漉いた紙は卒業証書として卒園式で授与されています。



関西地区見学会(黄桜伏水蔵)京都市伏見区

7月5日(水)に第10回定期総会と第30回情報交流会を終え、翌6日(木)には、京都伏見にあります黄桜伏水蔵の見学に25名が参加しました。

まず第3工場でビンとパックへのお酒の充填の様子を見学、その後新しく見学用に整備された伏水蔵を、5階の吟醸蔵から順に各フロアを見学、京都初の地ビールとしてつくられた「京都麦酒」などの醸造・充填ラインなども説明を伺いながら見学させていただきました。



帰途、時間の許すメンバー若干名で寄った駅近くにある「カップカントリー」